

高知大学 病院 ニュース

〔 編集 〕

高知大学病院ニュース

編 集 委 員 会

委員長 寺田 典生

〔 発行人 〕

高知大学医学部附属病院

病院長 横山 彰仁

平成26年度 医学部附属病院 年度計画概要

附属病院に関する目標を達成するための措置

高知大学の第二期中期目標として『人と環境が調和のとれた共生関係を保ちながら持続可能な社会の構築を志向する「環境・人類共生」の精神に立脚し、地域を基盤とした総合大学として教育研究活動を展開する。』などが掲げられています。

その中で、附属病院に関する目標としては、『①社会ニーズに呼応した病院機能・運営を強化するとともに、災害医療の充実、がん診療ネットワークの構築と診療体制の充実などを基盤として病院再開発を目指す。②先端医療の確立と研究成果の医療現場へのフィードバックを充実するとともに、パートナーシップに基づく地域医療を実践する。③教育・研修における医学から医療学へのパラダイム変化(医学という研究的価値は、医療現場でのコミュニケーションや手技、成果に反映できてこそという考え方の変化)に対応するため、スキルスラボや既設センター機能をより充実する。』を掲げています。以下が附属病院における平成26年度の計画です。

1 社会ニーズに呼応した病院機能・運営を強化するため、1)本院のクオリティ・インディケ이터(QI)の測定とホームページ等による社会への公表、2)感染対策、医療安全、栄養管理、褥瘡対策、創傷・失禁ケアに重点を置いた病院運営を実現する。

これらを実現するため、QI数とその向上度で医療の質と安全を可視化し、本院の感染対策、医療安全、栄養管理、褥瘡対策、創傷・失禁ケアに関して外部評価を受ける。【42】

- 1) QIの測定を継続し、病院機能及び質の向上を図る。
- 2) 感染対策、医療安全、栄養管理、褥瘡対策、創傷・失禁ケアに関するチーム医療の取り組みを継続し、病院機能及び質の向上を図る。

2 国立大学病院の在り方として単なる経済学的な経営効率ではなく、1)公共的価値(地域、県民の満足)と経営効率の両立、2)病院機能の「品質」の向上のため、公益性と病院収益を両立させた経営効率を実現し、満足度調査指数の向上と経営状況指標の動向で評価する。病院機能の「品質」に関しては、人的資源を適正配置し、コンプライアンスの精神やセキュリティを高め、ISO9001を更新し、術前外来件数、自己血輸血実施率など医療の安全に資する評価指標を向上させる。【43】

- 1) 患者満足度調査の中間評価を解析し、改善計画を立案、実施するとともに、改善策の効果を検証する。
- 2) 新たな光線療法の実施及び技術習得の教育を実践し、先端医療の実現化を図る。
- 3) ISO15189を活用したマネジメントシステムを構築して医療安全の指標の向上を図るとともに、経営効率向上の取り組みを推進する。

3 がん診療ネットワークを構築し、診療体制を充実させるため、1)都道府県がん診療連携拠点病院として、地域のがん診療

のサポート体制を強化し、2)外来機能に力点を置いたがん治療センターを充実させ、3)診療科を超えた臓器別チームや緩和ケアチームの活動を活性化し、4)院内がん登録、地域がん登録の精度を、今期6年間で、がん診療評価に活用可能な水準に高め、その水準を安定的に維持する。

これらの取組を通して、診療がん患者数、がん治療センターの患者数、がん診療地域連携クリニカルパス数、外来／入院がん化学療法比率、診療科を超えた臓器別診療の実施、緩和ケアチームの活動及びがん登録の実績増に繋げる。【44】

- 1) 都道府県がん診療連携拠点病院として、地域のがん診療を支援する取り組みを推進する。
- 2) 外来化学療法における患者サービス向上の方策を検討し、外来化学療法患者数の増加を図る。
- 3) 新しいがん治療の研究・開発を推進するとともに、ダヴィンチによる手術を含めた内視鏡外科手術等に携わるスタッフを養成する。
- 4) 院内がん登録の精度向上に関する取り組みを推進する。

4 トリアージ訓練に主眼を置いた院内防災訓練の充実やDMAT訓練への参加を推進する。【45】

- 1) 大規模災害訓練等を行い、病院スタッフ及び既存のDMATチームの防災意識並びに技能の向上を図る。
- 2) 広域的な災害拠点病院の機能の充実及び向上に関する取り組みを行う。

5 先端医療学推進センターやネットワークの充実を通じて医療の進歩、社会情勢の変化及び患者ニーズの多様化等医療を取り巻く環境の変化に対応した病院再開発を目指す。【46】

新病棟建設工事(再開発第1ステージ)を完成させるとともに、第2ステージの各改修工事を着工し、第3ステージの検討を継続する。

6 先端医療の確立と研究成果を医療現場へ還元するため、1)先端医療研究と臨床応用をカップリングし、2)PET事業の拡充・推進、FUSによる自由診療・臨床研究を推進する。

また、臨床試験センターにおける臨床研究部門と治験部門の業務を拡充し、CKD(慢性腎臓病)ネットワークの活動、臍帯血治療、抗がん剤感受性による個対応治療、慢性呼吸器疾患の治療、人工臓器の実用化への進展、DVT(深部静脈血栓症)予防法の実用化、嚥下・排泄・感覚機能の治療、血球粒度、電気泳動波形データを用いた診断支援システムの開発、細胞移植医療センター(仮称)の設立、がんペプチドワクチンの臨床応用を実現する。【47】

- 1)先端医療の確立と研究成果の医療現場への還元に向けて、先端医療研究と臨床応用のカップリングを推進する。
- 2)多能性を持った臍帯血幹細胞に関する臨床研究及び臨床応用を推進する。
- 3)高精度放射線治療システム、PET事業、FUS治療の充実及び臨床研究を推進する。
- 4)次世代医療創造センターにおいて、先端医療研究の実用化、質の高い臨床試験の実施、教育・人材育成の充実及び医療の国際化に向けた体制整備の推進を行う。
- 5)ダヴィンチを使用した先端医療の充実及び安全な適応疾患の拡大を図る。

7 パートナーシップに基づく地域医療を実践するため、1)高齢化先進県に即応した療養環境の充実と地域連携並びに、2)電子カルテ・PACSに代表される院内医療情報の電子化をさらに

推進し、3)高知ヘルスシステムを用いた地域関連病院との情報共有に役立て、4)検診業務サポート・地域の健康管理などの予防医学、5)地域関連病院と連携した在宅医療サポートにも貢献する。

このことにより、地域連携数や退院支援件数、さらには検診業務と在宅医療のサポート実績を向上させるとともに、電子カルテ・PACSを充実する。【48】

- 1)高齢化先進県に即応した地域医療及び地域連携に関する研究及び取り組みを推進する。
- 2)カルテ及び医療用画像の電子化を推進するとともに、地域関連病院と在宅検診の連携システムを構築し、在宅医療のサポートを推進する。
- 3)高知県内医師のキャリア形成支援プログラムを策定する。

8 医学から医療学へのパラダイム変化に対応するために、1)卒前から卒後にかけて、模型やソフトウェア、あるいは模擬患者の協力によるシミュレーションを通じた教育を充実し、また、2)医師・看護師・技師・薬剤師等全ての職種にリカレント教育、生涯学習の場を提供する。

このために、スキルスラボ及び低侵襲手術教育・トレーニングセンター機能をより充実させ、卒後研修医数、リカレント学習受講数、院外啓発活動数の増に繋げる。【49】

- 1)臨床技能及び遠隔操作型内視鏡外科手術等に関する教育を継続するとともに、新専門医制度に対応した教育を推進する。
- 2)高知県と連携し、指導医・専門医支援、国内・海外留学支援及び女性医師の復帰支援を推進する。
- 3)看護師や薬剤師の実習、研修及びリカレント教育を推進する。

市民公開講座について

がん治療センター部長 小林 道也

平成26年3月18日、高知県立高知追手前高等学校芸術ホールにおいて、都道府県がん診療連携拠点病院第5回市民公開講座「高校生へのがんに関する出前教育」を行いました。総合診療部の北村聡子先生による「タバコとがん～タバコの罠」、産科婦人科の國見祐輔先生による「子宮がん検診について」の2つの講義の後、質疑応答、講義前後のアンケートによるがんに対する意識の比較などを行いました。

若年層へのがん予防を含めた健康教育は、文部科学省や厚生労働省の呼び掛けによって全国で進められており、がんに関する正しい知識を若いうちから身につけてもらうことを目的としています。さらに子どもたちを通して親の世代にも予防や検診の大切さが伝わることも期待しています。

医師によるがんに関する出前教育は県内で初めての取り組みであり、1年生約280人が参加しました。質疑応答の際には、客席と司会、講師が一体となり、生徒からは「親がたばこを吸っているの、受動喫煙による肺がんが心配」「末期がん患者への対応はどのようにしていますか」など活発に質問があり、講師の説明に熱心に耳を傾けていました。本院は都道府県がん診療連携拠点病院として出前教育に本格的に取り組む方針で、今後も年に1度は中学校・高等学校への出前講座を開催する予定です。

写真左から：がん治療センター 小林道也部長、北村先生、國見先生 ▶



講演を聞く参加者



高校生の質問に答える北村先生



相良賞授与式について

先端医療学推進センター長 本家 孝一

平 成26年4月14日、臨床第1講義室において、平成25年度先端医療学推進センター学生顕彰制度「相良賞」授与式および受賞者によるプレゼンテーションを行いました。先端医療学推進センターの産みの親である相良祐輔前学長の名を冠したこの賞には、金賞と銀賞があります。金賞は、4年生修了時に、三年間を通して多大な研究成果をあげた学生に授与されます。銀賞は、各学年において一年間で目覚ましい研究成果をあげた学生に授与されます。授賞者は、書類審査と面接審査からなる厳正な審査により選ばれます。相良賞が出来て三年目となる今回、初めて金賞が出ました。銀賞は、3年生(現4年生)と4年生(現5年生)から2名ずつが選ばれました。

『先 端医療学コース』では、医学研究に必要な科学の考え方と方法を学ぶとともに、最先端医療開発現場での実践研究を通して課題探求能力を磨き、主体性とリサーチマインドを涵養します。地域医療を目指す医学生にとっても科学的思考能力は不可欠であり、先端医療学コースはこれを身につける絶好の機会となっています。現在、一学年あたり、20余名が先端医療学コースを履修しています。

研 究は投資です。先端医療学コース履修生が将来、一味違った医師となって活躍してくれることを期待いたします。



賞状、トロフィーの授与:相良賞金賞

金賞受賞者
(医学科5年 大友 和則さん)による
プレゼンテーションの様子



相良賞(金賞)の授与を受けて



医学科5年
大友 和則

このたびは相良賞金賞を受賞することができ、大変嬉しく思っております。

先端医療学コースに在籍していた三年間の締めくくりとしてこのような栄えある賞が頂けたのも、ひとえに環境に恵まれたおかげであると考えております。

私が所属していたメディカルデータマイニング研究班では高知大学医学部附属病院に蓄積されている30年間の入院患者さんのデータを解析して、新たな知見、法則を発見することを目標としています。その中で私は三年間にわたって「急性腎障害」を対象に研究を行いました。急性腎障害とは何らかの原因により急激に腎機能が低下した状態を指し、一般に予後が悪いとされています。初年度は当附属病院において急性腎障害を発症する患者さんがどの程度の割合でいらっしゃるのかについて研究を行いました。二年目はどのような疾患に罹患した場合に急性腎障害を発症しやすいかについて研究を行い、既知のリスク疾患の確認および未知のリスク疾患を発見しました。そして最終年度は血清尿酸値と急性腎障害の発症率との関連性を明らかにしました。現在は指導教員の奥原先生、内分泌代謝・腎臓内科学講座の寺田先生・堀野先生とともに論文化に向けたプロジェクトを進めております。

最後になりましたが、先端医療学コースに在籍していた三年間を通して充実した研究活動が行えたのは、奥原先生をはじめとする医学情報センターの先生方や寺田先生のお力添えがあってこそでした。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

新任のご挨拶



学生課長
高橋 聡

「8年ぶりの医学部」

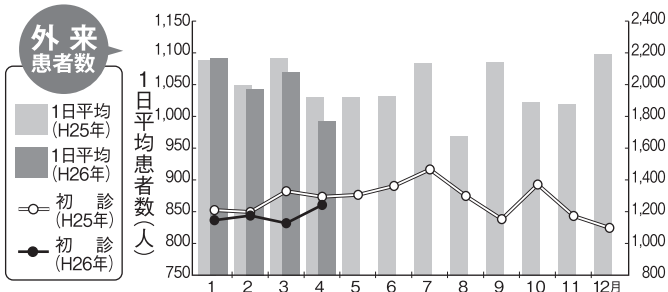
平成26年4月1日付で学生課長を拝命しました高橋です。平成18年4月に学生・研究支援課(今の学生課)を出てから、8年ぶりの医学部での仕事になります。この間、阿南工業高等専門学校(学生課長)、香川大学(入試グループリーダー)、高知大学(入試課長、学務課長)で勤務して参りました。

久しぶりの医学部の仕事で他学部との違いを感じるということについて述べてさせていただきます。

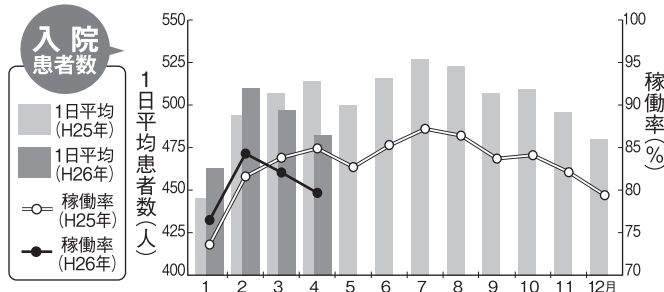
学生課の仕事は幅が広く、学部及び大学院の教務関係、学生支援関係、入試関係、留学生関係と朝倉キャンパスで言えば、学務課、学生支援課、入試課、国際交流課の4つの課が扱っている業務を行っています。医学部の学生さんは学生課で殆どの用件を済ますことができますので、事務職員と学生さんとの距離は朝倉キャンパスの3学部よりは近いものがあると思います。また、医学部には各学年にクラス委員がおり、学生さんへの連絡体制もしっかりしています。これは、殆どが必修科目であり、学年全体での行動が多いから出来ることで、他学部では難しいことです。

業務を遂行する上で、一番大切な事は信頼関係を構築することだと思います。学生さん、保護者の方、教職員の方々から信頼されるように、また、他大学や朝倉キャンパスでの経験を活かして、医学部のために少しでも貢献できるよう頑張りたいと思いますので、ご指導、ご協力いただきますよう、よろしくお祈りします。

診療状況



1日平均患者数は3月と4月ともに前年同月より減少。
初診は3月が前年同月に比べて大きく減少したが4月は同等となった。



患者数・稼働率共に3月から減少傾向。
前年同月に比べて4月の稼働率は5%(1日平均32人)も大きく減少。

編集後記

昨年度1年間、病院ニュース編集委員会委員を務めさせていただき、今年度より委員長という大役を仰せつかることになりました。

何とか1年間頑張っていきたいと思っております。

今年度は待望の新病棟が完成する予定であり、色々な環境の変化が予想されますが、皆様の温かいご協力の下に和やかな仕事の道標として

一読していただければ幸いです。今回は総務企画課より附属病院にかかわる年度計画(平成26年度)中期目標・中期計画の解説がありました。また相良賞を受賞された学生さんの研究紹介、新任の高橋学生課長からの就任のご挨拶もいただきました。今後は、各診療科で取り組まれている先端医療や地域連携についても紙面の許す限り取り上げていきたいと思っておりますので、何卒ご協力の程お願い申し上げます。(文責:寺田 典生)